東京薬科大学新聞

発行所
東京薬科大学
新聞会
責任者
藤村ゆりか

新学長決定

四月一日をもって本学学長に山川民夫氏が任命された。今回新聞会では三月十一日に学長候補として推薦されたときの「選考経過並びに推薦理由」を全文掲載し、新学長の紹介としたい。

平成三年三月十一日付の公示によると、本学学長任用規程第三条に従って、平成二年十一月十九日に発足した推薦委員会は委員会四回、小委員会四回、計八回の審議を経て学長候補として山川民夫氏を推薦するに至った。任用規程第十二条に従い、三月九日理事会の承認を得て、学長候補として公示された。

山川氏の学長候補決定理由について、選考委員会の「選考経過並びに推薦理由」をここに掲載する。

一、選考過程

第一回推薦委員会（平成二年十一月二十三日開催）において、正・副委員長を互選し正・副委員長と事務担当委員二名からなるワーキンググループを発足させました。

候補者の推薦届出締め切り日を二月十六日（土）、推薦委員会の選考終了予定を三月九日（土）、また理事に対する報告（規程第十一条）予定を三月十五日（金）までに行うことを決定致しました。

第二回推薦委員会（平成二年十二月二十一日）では、日程と推薦届出要領の詳細及び推薦委員会からのお願い文を「理事会ニュース」（No.二一、平成二年十二月二十二日付）に掲載、広報することを決定致しました。

第三回推薦委員（平成三年二月二十二日開催）では、提出された学長候補者推薦届出書類一件が規程第九条、第十条に適合していることを確認し、この書類を基にして審議を開始致しました。その結果候補者に関する諸資料を推薦委員会が集めることとして、決定を保留し、次回の委員会にて改めて審議することに致しました。

第四回推薦委員会（平成三年三月一日開催）では、提出された学長候補者推薦書類及び推薦委員会が集めた学長候補者に関する諸資料を基に充分に審議した結果、出席委員全員（十三名）が満場一致で現財団法人東京都臨床医学会総合研究所所長、山川民夫氏を学長候補として推薦することに決定致しました。

二．推薦理由

山川氏は、昭和十九年九月に東京帝国大学医学部医学科を卒業された後、直ちに東京帝国大学伝染病研究所に奉職され、第七研究部に所属して研究者としての道に進まれることとなりました。昭和二十二年五月には同所助手、昭和三十二年三月には同所化学研究部助教授、昭和三十四年十月には同所同研究部教授、昭和四十一年四月には医学部教授（生化学講座担当）に任ぜられ、昭和五十七年四月に東京大学を定年で御退官になるまで、通算三十七年有余にわたって教育と研究に情熱をもって当たられたのであります。御退官後は、東京大学から名誉教授の称号を受けられ、さらにその四月からは財団法人東京臨床医学総合研究所に所長として赴任され、現在に至っております。

山川氏の研究は、（故）浅野三千三教授のご指導の下に始められ、結核菌の枝鎖脂肪酸に関する研究を学位論文「動物体内に於ける枝鎖脂肪酸の運命」として纏め、昭和二十六年十月に医学博士の学位を授与されております。その後、研究対象を複合糖質に転じ、赤血球膜の糖脂質に関する独創的で基礎的な研究を展開されました。その成果は、①脳に存在が知られていた糖脂質がヒトやウマなどから得られた赤血球膜からも得られることを明らかにされ、それらをグロボシドならびにヘマ

トシドと命名されたり、②赤血球の持つ血液型の一つであるABO式型がその糖脂質によって発現されていることを見いだされたり、③ガン細胞の膜の機能に関する基礎的展開を遂行され、その機能を解明する端緒を開かれております。また、④イヌの赤血球膜由来の糖脂質に関する遺伝学的な御研究もなさって、それを今日の日本民族の渡来経路と結び付けられるなど、大変ユニークで画期的的なものであります。

このように、山川氏は薬学の領域とも大変深い関わりを以て研究を展開して来ておられ、こうした一連の成果は三百報を超える論文ならびに総説、それに著書といった業績に纏められ、国の内外を問わず国際的に学会の認める処となり、以下のような賞を授与されております。

昭和三十年十月
日本生化学会第一回奨励賞

昭和四十二年十月
山路自然科学賞

昭和四十七年五月
内藤記念科学振興賞

昭和五十年一月
朝日賞

昭和五十一年六月
日本学士院賞

平成三年一月
東京都文化賞

一方、この間に次のような役を務めて来られました。

昭和四十八年九月
日本生化学会会長

昭和五十五年十月
日本生化学会会頭

昭和六十年から今日まで
日本脂質生化学研究会会長

また、以下のように、多くの名誉会員等に推載されております。

昭和六十年
日本薬学会名誉会員

昭和六十一年
アメリカ生化学会名誉会員

昭和六十二年
日本学士院会員
日本生化学会名誉会員

昭和六十三年
ユーゴスラビア学士院会員

というように、山川氏は誠に輝かしい経歴をお持ちであります。

また、山川氏は財団法人東京都臨床医学総合研究所に九年有余にわたって所長を務められ、大きな組織に於ける管理者としても有能であることが示されており、今後、本学に対して大所高所から御配慮と御指導を戴けることと考えております。

東京薬科大学が二十一世紀に向けて大きく自己変革を遂げなければならない時に、本学の次期学長候補として、優れた学問的業績と管理能力を併せ持つ教学の最高責任者を推薦することが決定されましたことは、本委員会と致しましても大変幸いなことと考えております。

以上

その後、正式に山川氏を四月一日付で学長に任命することが決定され、四月五日の入学式式場で山川新学長として初めて我々の前にたち式辞を述べた。新学長はその学長式辞の中で「研究には独創性が必要である」と述べ新入生に大学に於ける学問の指針を示すと共に、学問だけにとどまらない大学生活を有意義に過ごすよう新入生に語った。

なお今回から改訂後の学長任用規程が初めて適用されている。従来までは学長選出時に学生全員で信任・不信任投票をし、信任を受ける、あるいは投票を学生側が棄権するとその結果を四年間有効としていた。今回からは学長が就任して二年目以降であれば学生の三分の一以上の署名でリコール請求の投票を行える。

なお、学長以下の人事は左の通り。

学長補佐（総務担当）
粟津荘司

同（教務担当）山田泰司

同（学生担当）石戸良治

教務担当主任　樹林千尋

同　副主任　森川正子

学生担当主任　須賀哲弥

同　副主任　竹谷孝一

敬称略

発行所
東京薬科大学新聞会
責任者　藤村ゆりか